

# スマート・プランニング講習会 『実務者の為の実践手法の習得』開催



平成30年10月31日(水)、建設コンサルタントなどの実務者を対象に、スマート・プランニング講習会『実務者の為の実践手法の習得』を開催しました。

建設コンサルタントやシンクタンク、情報通信会社など約20名の技術者が集まり、事例紹介や演習を通して、スマプラへの理解を深め、実務で必要なスキル習得に勤めました。

## はじめに

講習会の開催にあたり、国土交通省都市局都市計画課都市計画調査室の関信郎課長補佐より、スマート・プランニングが誕生した背景から導入が想定される場面、また、これまでの適用事例や普及に向けた取組みなどの活動状況、今後の展開に至るスマート・プランニングの全体像について説明いただき、参加者一同、スマート・プランニングへの理解を深めました。

## 事例紹介

神戸市における道路空間の再配分への適用について復建調査設計の川口氏、流山市における子育て施設の配置と人の動きに関する分析について福山コンサルタントの末成氏から、それぞれ実施手法や検討内容を説明いただきました。急遽、札幌市地下街で現在検討中の事例について意見交換が行なわれるなど、実務者対象の集まりならではの議論も展開されました。

## 実践型ワークショップ

(一財)計量計画研究所の石井氏から、岡山市での歩行回遊シミュレーションの事例を対象に必要なデータの作成方法からシミュレーションモデルの検討、アウトプットの可視化といった一通りの手法の流れについて説明を受け、基礎的な知識や理解を深めました。その後、同研究所の茂木氏より、参加者一人ひとりに配布された演習用のデータについて説明があり、各自が思い思いにデータに触れました。配布されたデータは、模擬演習用の歩行回遊シミュレーションデータとシステムです。参加者は、予め推定されたモデルをもとに、各自が対象地域で仮想の施策を想定して加工した入力データ(ゾーン別、ゾーン間LOS、来訪者数データなど)でシミュレーションを実施し、アウトプットデータの考察などを行なうことで、スマート・プランニングの実務での活用へのイメージや期待感を膨らませました。



## おわりに

最後に、(一財)計量計画研究所の石神氏より、個別の施策を評価すればよいのではなく、それによってまち全体での人の動き・回遊をどうマネジメントしていくかが大切であるとスマート・プランニングの使い方へのアドバイスをいただきました。

